

ゆっくりいしたもんせ、癒しどころ鹿兒島

大人の夏休み日記を書きに行こう

夏休みは子どものためだけだろうか？いや大人こそ、日常の煩わしいものを一切合財放り出し、夏休みを満喫したい。今年の夏は鹿兒島で遊ぼう。ゆっくりいしたもんせ(ゆっくりいしなさい)と言ってくれれば、人がきつといる。まずは垂水市の渓谷でキャニオニング体験。澄んだ清流がすっきり自分を解放させてくれるだろう。

爽快、キャニオニング！ 大のオトナが溪流遊び

キャニオニングとはフランス発祥の溪流下りスポーツ。本来はアドベンチャー的要素が強いが、一般初心者でも気軽に楽しめるレベルのものが近年脚光を浴びている。高限山系の麓、嶺ヶ城渓谷の本城川ではそんなキャニオニングが体験できる。拠点は川に面した「森の駅たるみず」。「若くて体力がないと無理では？」と心配すると、インストラクターの寺田敏正さんは「大丈夫！年配の方でも安心してできますよ」と太鼓判を押した。

必要な装備に着替えて準備運動と諸注意を受ける。その後、寺田さんに伴われて森の駅からやや上流の「嶺ヶ城」へ。まずは溪流になれることから。川の水は夏と言えども、ひんやりと冷たい。川水に体をならし、岩場からエメラルドグリーンに飛び降りたり、プカプカ浮いたり。浮いたまま空を見ると青空がパノラマ状に広がり、渓谷の緑がその周囲を縁取っている。まるで川水のベッドの上で寝転

んでいるような錯覚さえ覚える。そして、なぜか心まで軽くなった。また、岩から吊るしたロープでターザンジャンプすれば、一気に童心に帰る。さらに狭い岩場を流れる急流に思いきって身を滑らせた。一瞬、ザブザブ、ガバガバと水が襲いかかってくるが、天然のウォータースライダーと思えばかえって楽しい。滑り降りると誰しも無邪気に笑ってしまう。川の中ではしゃいで、こつなればもう完全に河童である。いや、河の童とはよく書いたもんだ。



川水にプカプカ浮かべながら仲間と円陣を組もう



子どもでもキャニオニング体験が可能。年齢や体力に応じてインストラクターが指導する

豊富な体験メニューも 森の駅たるみずの自慢

嶺ヶ城のキャニオニングは溪流スポーツに様々なお楽しみポイントがある。単に川水と戯れるだけでなく、岩の中をくぐったり、登ったりと溪流の全てを体験する。寺田さんが「その岩の間をちよっと覗いてご覧」と促した。岩と岩の間にあつたもの、それは天然のハート石！「若い女性には人気ですよ」。人為的に挟んだのではないという。溪流に洗われ、流され、削られていくうちに岩に挟まった石がハート形になったのか。自然の造形は面白い。

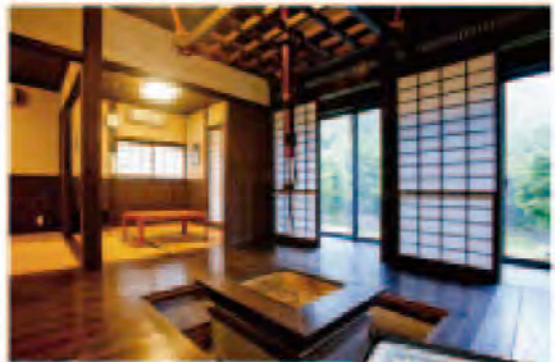
2時間のキャニオニングはあつという間。スタートの嶺ヶ城からゴールの「森の駅」のコテージ下までは距離にすれば短い。しかし、それを感じさせない体験内容だ。体験後は「森の駅」でゆっくり体を休ませよう。飲食設備はないが、事前に予約して市内の弁当を

取り寄せることが可能だ。

ところで、この「森の駅」はキャニオニング以外にも豊富な体験プランがある。トレッキングなどのアウトドア型から農業体験、料理体験、工芸体験まで、好みに応じて予約参加できる。渓谷の豊かな自然環境の中で自分なりの夏休みを楽しむ。それが何よりの癒しになるかもしれない。



本城川は花崗岩の巨岩が連なり、その花崗岩によって川水が浄化されているという



森の駅たるみずのコテージは全日棟。すべて天然温泉付きだが、すでに夏場は予約でほぼ満杯という。



ボリュームある「森の駅」たるみずの「嶺ヶ城介鳥」男爵」は5倍から予約可能。森の駅まで配達してくれる。1,000円(写真提供・トライ社)



嶺ヶ城渓谷 森の駅たるみず

垂水市新築1344-1 ☎0994-32-9801
[営]8:30~17:00 [休]なし
[アクセス]東九州自動車道園分ICから国道220号経由、新垂水フェリー前

バームクーヘン作り体験。そば打ち体験は5名以上で申し込みを。バームクーヘン作り体験1名1,900円、そば打ち体験1名1,800円。いずれも保険料含む

ココもおススメ



酒造効果によるもろみ発酵はもろみの旨味が立つと八木健太郎さん

八千代伝酒造

「森の駅たるみず」のわずか200mほど手前にある焼酎蔵元。昭和3年に創業したが48年に一度蔵を休業した。焼酎業界が息を吹き返した平成16年に蔵をこの地に移して再開。家族経営での再出発だったという。水と空気が良い嶺ヶ城の環境を生かし、焼酎の仕込みは昔のまま、手間の要る製法にこだわる。その方が均一なもろみ発酵が進むという。「量より質。安売りせずに適正価格で販売する」と八木健太郎専務。焼酎本来の味を伝える蔵である。販売所での試飲可。

垂水市新築1332-5
☎0994-32-8282
[営]9:00~17:00(観見学は要予約) [休]日祝・曇・正月
[アクセス]東九州自動車道園分ICから国道220号経由、新垂水フェリー前



旧みかん屋の構造に造られた酒蔵は森の体験所のような佇まいを見せる

正産物産産産

「道の駅」たるみず

錦江湾に面しており、全長60mの足湯をはじめ、レストランや温泉から錦江湾と桜島を楽しむことができる。特産はブリ、カンパチなどでレストランでは海鮮丼や地元ブランド豚「美湯豚」のロースカツなどが味わえる。物産館内にはつきあけ(さつま揚げ)の製造場があり、できたてのつきあけが購入できる。ドライブ中の小腹満たしにいかが？

垂水市牛根1038-1 ☎0994-34-2237
[営]9:00~20:00 温泉13:00~21:00(最終20:00)。
レストラン11:00~17:00(土日祝~21:00)
[休]温泉:水曜(祝日の場合営業)
[アクセス]東九州自動車道園分ICから国道220号約30分



ココもおすすめ



無敵のない素晴らしい温泉施設が揃って鉄道ファンに憧れを誘う



通称「かれい川弁当」を平日に希望する場合は事前に「命の弁当やまだ屋」に予約し、店頭で受け取りを

高例川駅と高例川弁当

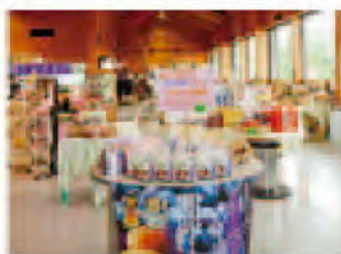
JR肥薩線の高例川駅は塩湯温泉公園、妙見温泉からも車で5分ほど。開業110年余りの現役鉄道駅だ。同じ肥薩線の大隈橋駅と並ぶ最下最古の木造駅舎である。無人駅となって久しいが、当時の駅舎や宿直室らしい小部屋が残されている。現在は観光列車「はやとの風」も停車し、鉄道ファンを集めている。ここで土日祝日に売られている「百年の旅物語かれい川弁当」(1080円)が人気。ガネと呼ばれるさつまいもと野菜の天ぷらなど、郷土料理が味わえる。

JR高例川駅
鹿児島市人町高例川2176
命の弁当やまだ屋 鹿児島市人町小田1672-2 ☎090-2085-0020

工場直産直営

神話の里公園「道の駅」霧島

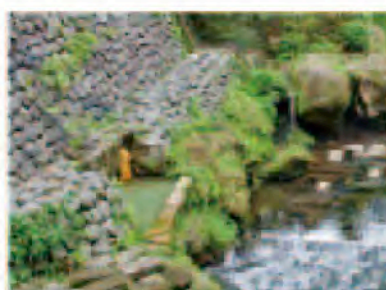
霧島神宮近くにあり、観光公園と一体化した道の駅。斜面に沿って築かれており、遊覧リフトで見る展望広場は標高670m。九州神話の道の駅で最も高い位置にある。当然、眺望は絶好で晴れた日には開聞岳まで見える。ブルーベリー園は入園無料。収穫量に応じた料金を払う収穫体験ができる。ブルーベリーソフトをはじめ、オリジナル商品も豊富だ。



鹿児島市霧島田口2583-22
☎0995-57-1711
[営]9:00~17:00
レストラン10:00~17:00
[休]年末
[アクセス]九州自動車道
高尾川ICから国道
504号経由国道223号で
約35分



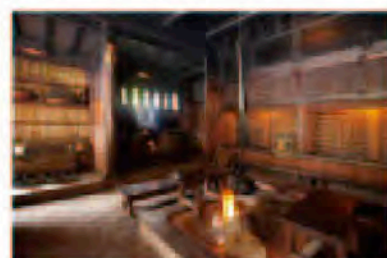
龍馬らが宿泊したとされる宿の跡地に「日本初の新婚旅行」をした二人の銅像が立つ



川沿いにある小さな露天の浴槽は龍馬が入ったとされる。現在は浴用には使われていない

塩湯温泉龍馬公園
鹿児島市牧園町室田3606 ☎0995-76-0007
[営]9:00~18:00(月曜は9:00~17:00)
[休]なし
[アクセス]九州自動車道高尾川ICから国道
504号経由、国道223号で約10分

龍馬本館
鹿児島市牧園町室田4236
☎0995-77-2205
[アクセス]九州自動車道高尾川ICから国道
504号経由、国道223号で約7分



龍馬が泊るスペースでは系列前の座で書いている龍馬の跡で作るプリン(150円)、あるいはうどん、おでんなどの軽食が味わえる



天降川沿いの妙見温泉

「ねむの湯」は、思いのほかにんまりとしている。男女とも熱めの「胃腸の湯」とややぬるめの「傷の湯」の二

つの浴槽が並び、その奥に打たせ湯がある。浴槽は2、3人が入れるほどの大きさで、「傷の湯」にはみかん色をした大きな湯の花が浮かぶ。浴室が満杯ならんびり天降川を眺めながら待つことになる。あるいは館内の「神経痛の湯」を利用していい。「どこからおいでですか」湯上りの老夫婦がにこやかに話しかけてきた。「福岡市」と答えると「私も福岡から。毎月10日くらい滞在すつとよ。私は足が悪かけんね」と老婦人が笑った。遠路はるばる毎月通ってくる。湯の効能があるからこそ。

さて、同じ「新川渓谷温泉郷」の「妙見温泉」へ。天降川沿いに開け、古くから湯治場として親しまれている。高級旅館がある一方で、自炊設備を備えた湯治客用の宿泊施設も健在だ。温泉本来のあり方を楽しまむなら、じっくり長逗留で経済的に済ませたいところだ。温泉旅館「田島本館」は妻泊まり、食事付き、自炊という、それぞれのスタイルで泊まれる宿である。

湯上り、あるいは湯を待つ間、宿の囲炉裏スペースで過ごすこともできる。囲炉裏の前には籠があり、本館宿泊客には釜炊きご飯が出されるという。自炊客の要望にも応える。都会ではなかなか味わえない「美食」だ。「日本を今一度洗濯したし申し候」と言った龍馬のような気宇壮大な大望は推かずとも、温泉で命の洗濯ができれば何よりだ。

効能豊かな湯に浸かり身も心も洗い直す



ゆつくいいしたもんせ、癒しどころ鹿児島 大人の夏休み日記を書きに行こう

早朝「龍馬の湯」、その隣が「龍の湯」、奥の打たせ湯と続く。入浴料250円

川のせせらぎ、高原の風、湯の癒し 霧島市

鹿児島に行くならやはり温泉は外せない。天孫降臨神話を持つ霧島市は、日本初の国立公園として豊仙、瀬戸内海と共に選定されて今年で80年。それを記念し、来年春まで64か所の温泉を巡るスタンプラリー「きりしまゆ旅」を行っている。当然、歴史ある湯治場も含まれている。効果効能のほどは歴史と湯治客が語ってくれた。

日本初の新婚旅行は 龍馬の温泉湯治

霧島市には西郷隆盛が好んだ県内最古の「日当山温泉郷」をはじめ、4か所の温泉郷が存在する。それらを湯治と新婚旅行を兼ねて回った歴史上の人物がいる。坂本龍馬その人である。寺田屋襲撃事件で重傷を負った龍馬と妻のお龍は、西郷隆盛らの斡旋で霧島の湯で傷を癒した。中でも最も長く滞在したのは現在の「新川渓谷温泉郷」にある「塩湯温泉」だ。



解憂い日道が龍馬の散歩道だった。温泉療養とお龍との散歩デートが襲撃事件の傷を癒したのだらう

ココもおすすり



トロッコ列車の敷道橋脚跡、大正3年に築造され、当時は県内で最も高い架橋だった



静寂と茂った雑草に覆われた金山の遺構、周辺を回ると壮大な金山の様子分かる

水野金山跡

江戸時代初期に見えられ、一時は佐渡金山をしのぐ国内最大の産金量を誇った。薩摩藩主島津家が経営を握り、藩の重要な資金源でもあった。継新後も島津家の経営の下、明治40年には金山専用の水力発電所が設置された。最盛期には1,000人以上が働く県内最大規模の企業だった。昭和33年に閉山。遺構も年月と共に朽ちたが、今も島津家の家紋が施された坑口、鉱員たちの風呂場跡、トロッコ列車の敷道橋脚跡などが随所に残る。2月には「水野ウォーキング」が行われている。

薩摩郡さつま町水野金山
☎0996-57-0970(さつま町教育委員会薩摩教育係)

工芸館・直売所

宮之城ちくりん館

さつま町で最も規模の大きい直売所。直売所をはじめ、パンやアイス、クリームを提供する地域食材加工施設、レストランを備える。特産は「薩摩西郷梅」の名産高梅やたけのこ。夏場はマンゴー、びわ、ブドウなどが並び、川内川の鮎、鯉、山太郎ガニ、すっぴんも名産だ。レストラン「とどろ亭」は土日と水曜がランチバイキングの日となっている。



薩摩郡さつま町時吉40
☎0996-52-4911
[営]9:00~18:00
レストラン 11:00~14:30、
17:00~21:30
[休]1/1~1/3
[アクセス]九州自動車道横川ICから国道504号経由、国道504号で約45分



山下さんは元CADインストラクター、50歳で養蚕した経歴の持ち主



上別府さんが笑顔でけせん団子作りを教えてください



「けせん」は肉桂(シナモン)属の樹木であり、鹿児島や沖縄などの温暖な地域にしか育たない。「かから」も同様に南国の樹木だ



手前がよもぎのけせん団子、奥が小豆のけせん団子



金糸、銅糸、藍などの七色の伝統色に加え、復元した「古式」、現代的な色の計9色の切子が作られている



さつま町ガラス工芸館
薩摩郡さつま町水野5685-5
☎0996-58-0141 [営]9:00~17:00
[休]無休 [アクセス]九州自動車道横川ICから
国道504号経由で約20分

薩摩切子の美に
時を忘れて浸る

もう一つ、さつま町でぜひ訪れてほしい場所がある。薩摩切子の工房、さつま町ガラス工芸館である。旧薩摩町の町おこしで設置された同館は、20数年前に再現された薩摩切子の技法を継承している。旧町はガラス工芸展を開催していたほど、工芸品にも力を入れていた文化の町なのである。現在はガラス工芸会社「薩摩びーどろ工芸」社のガラス職人10名が

吹きガラス、カットガラスの専門職で分拍作業をしている。工房見学ができるが、実はショップギャラリーでは常時、切子体験もできるのだ。色ガラスに直線の割り付け(デザイン)をし、砥磨カッターを入れる工程だ。約30分までできるというが、人によっては没頭して時間を忘れてしまうという。5人までなら予約不要だ。繊細なカット細工が美しい薩摩切子を鑑賞し、実際に体験する。それも大人の夏休みの楽しい宿題にしてほしい。



ゆつくりしたもんせ、癒しどころ鹿児島 大人の夏休み日記を 書きに行こう

さつま町農家民宿の問い合わせ・予約先
さつま町農産館 ☎0996-53-1111(内線2422)

山下さんの南出で酒が買える。竹の皮で巻くもずる芋芋餅作り。大人の夏休みも積極的に楽しめよう

農家の温もり、
工芸の美で癒す さつま町

名所旧跡を見て回る。土地の味を楽しむ。温泉でゆっくり過ごす。旅のカタチはさまざま。旅先の風土と人情、歴史や生活文化にとっぷりと浸るなら農家民宿もいい。旅館とは違う温もりのもてなし、郷土の味、懐かしい空気感……。帰る時にはもう一つの「実家」を得たような気持ちになれる。そんな旅を望むなら、さつま町で過ごしてみよう。

薩摩のおやつ作りは
豊かな香りに癒されて

北薩摩エリアに属するさつま町は、町内にいくつもの小さな温泉地を持つ静かな農村地帯だ。この町では15軒の農家が農家体験民宿の受け入れ先になっている。会長は農家民宿「竹の子村」を運営する山下康博さん。旧宮之城町の実家跡地に自ら宿泊棟を設計した。ほぼ一年中だけの採れる地域だけに、たけのこ掘り体験が主だ。「たけのこでメンマ作り体験もできますよ。囲炉裏を囲んだ食事は竹の器に盛ったたけのこ飯、川内川の鮎や川太郎ガニなど。山下さんは狩猟許可も持ち、そのため鷹やイノシシなどの和風ジビエを出すこともあるという。

永野金山跡に近い上別府代さんの民宿名は「葉隠楼」。農家の畑仕事の手伝いが主な農業体験になるが、雨の日は郷土菓子の「けせん団子」から団子作りができる。よもぎ餅や小豆餅をけせんの葉で被せたのが「けせん団子」、餡入りの草餅をかからの葉で被せたのが「かから団子」という。「昔は農作業の合間におやつとして食べたんです」と上別府さん。早速、けせん団子作りにかかる。その作り方もいたって簡単だ。もち粉、砂糖、蒸したヨモギなど材料を合わせ、水を加えながらしっかりとこねる。それを丸めて葉を被せたら後は蒸すだけだ。やがて蒸し器からレモングラスに似た爽やかな香りが広がります。けせんの葉の香りが団子に移し、人もこの香りにリラックスしていき、でき上がった「けせん団子」はもちもち弾力が強い。甘さも控えめ。「美味い」。思わず笑みがこぼれた。



ほぼ一年中たけのこが採れる (写真は10月末に出回る早摘みだけの)